

# 付着生物ラーバ情報

## ユウレイボヤのラーバはほとんど出現していません

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図2)。

#### (2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは奥内沖で11月8日に5.0個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で11月18日に2.2個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で11月7日に267.2個体/m<sup>3</sup>、11月15日に16.4個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図3)。

#### (3) その他

マボヤの卵が野辺地沖で11月15日に0.8個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図4)。

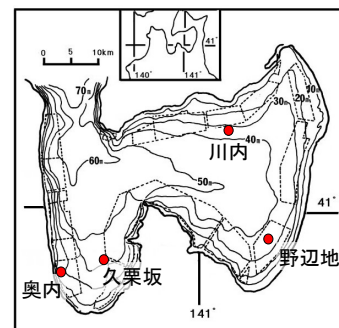


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ガラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R4.11.8	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	R4.11.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
久栗坂沖	R4.11.18	0.0	0.0	0.0	2.2	0.6	0.0	0.0
	R4.11.7	0.0	0.0	0.0	267.2	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R4.11.15	0.0	0.0	0.0	16.4	0.0	0.0	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

### 2 今後の見込み

ユウレイボヤは例年10月～12月にラーバが出現しますが、今季はほとんど出現していません。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバが出現する可能性があるので親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバが増加していますが、秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

### 3 天然採苗情報

マボヤの卵が出現したことから、今後ラーバが出現するものと考えられます。

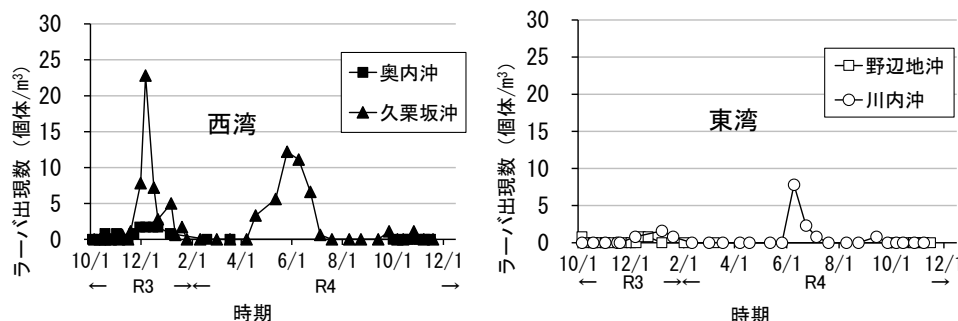


図2 ヲウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年11月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

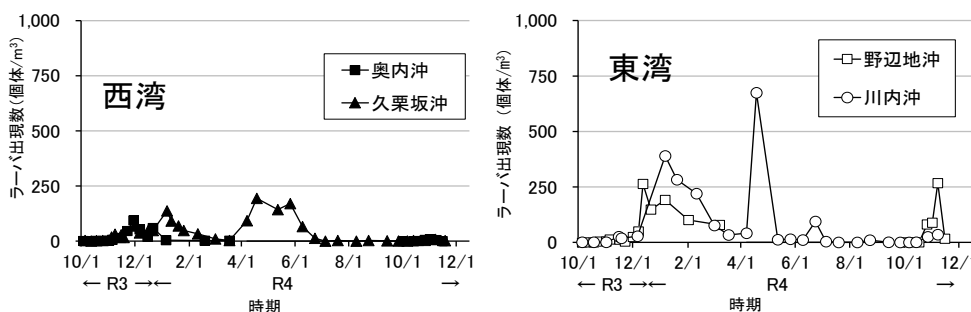


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年11月)

・平成27年の観察開始から現在までの最大値：西湾 417個体/m<sup>3</sup>、東湾 1,650個体/m<sup>3</sup>

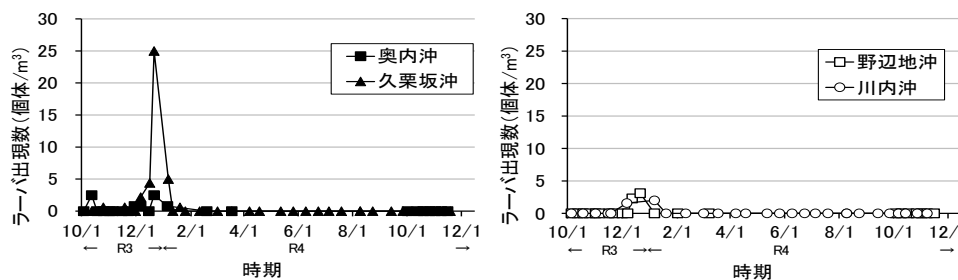


図4 マボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年11月)

・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 27個体/m<sup>3</sup>、東湾 5個体/m<sup>3</sup>

